

第十四回企業活性化研究分科会・議事録

〈第十四回 2008年9月20日(土) 13:30~17:00 於：専修大学(神田校舎)〉

1. 参加者：山本、井端、大野、木村、渡邊、大柳、横山、星野、菅原、宮川、齋藤、杉本、酒井

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『継続企業の前提に関する分析』

- ・ 報告者：菅原智久(専修大学大学院)
- ・ 配布資料：分析資料 10枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告では、ローマイヤ株式会社についての継続企業の前提を分析したものである。ローマイヤ株式会社とは食肉加工を中心とした食品会社であり、東証2部に上場している。近年のBSE問題等の食品問題の影響を受け経営の効率化を図るが、2003年から導入された継続企業の前提に関する注記については6期連続で付されている。しかし、いまだ倒産には至っていない。その理由は、親会社であるスターゼンからの第三者割当増資による株式発行、借入金等の資金調達によりキャッシュが回っていたからである。

- ・ 報告者：宮川宏(専修大学大学院)
- ・ 配布資料：分析資料 18枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告では、三井鉱山株式会社についての継続企業の前提を分析したものである。三井鉱山株式会社は明治22年創業、石炭の採掘を通じ産業基盤の整備と経済発展に大きく寄与してきた。しかし、2003年には債務超過に陥り継続企業の前提に関する注記が付されることとなる。その主な原因としては、経済環境の変化、子会社・関連会社に対して貸引等の損失引当金を計上したことが挙げられる。これをうけ、産業再生機構からの支援をもとに財務体質の健全化、経営資源の選択と集中で企業の体質改善をおこない、継続企業の注記がはずされた。

4. その他

次回の日程

- ・ 11月22日(土) 専修大学神田校舎 13:30から

文責：(酒井友也)